

## 平成 25 年度 第 2 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 25 年 9 月 30 日（月）午後 2 時～午後 4 時

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：12 名（欠席 2 名）

### ◇議事内容

#### 1 開 会

#### 2 協 議

- (1) 市民協働のまちづくりフォーラムの開催（案）について
- (2) 市民協働のまちづくりに関するアンケート調査について
- (3) 連続講座の開催について

◇主な意見（○：委員の発言，●：事務局の発言）

#### 2 協 議

- (1) 市民協働のまちづくりフォーラムの開催（案）について

○：スケジュールの中で，11 月に第 4 回の会議をしてチラシを封入するようになっているが，住民組織にはいつ頃手元に届くようになっているのか。

●：市の回覧を利用し，12 月 1 日回覧（11/27 発送）で発送し，12 月中に回覧していただきたいと思っている。広報については 1 月 1 日号に載せる予定。回覧については 1 月 1 日分では遅いと思うので，12 月 1 日，あるいは 12 月 15 日に発送するものもあるので，どちらかに間に合うようにしたい。

○：今の町内会回覧のスケジュールで住民組織としてはどうか。

○：うちのほうの回覧状況を見ると月初めの回覧は量が多くなるが，だいたい皆一ヶ月前には予定を立てるため，12 月 15 日分では遅いと思う。今の予定どおり 12 月 1 日で送ってもらえればいい。

○：もう一方では，毎月 20 日頃に集まりをするところが多いので，12 月 1 日分となると 11 月末に届くので間に合わない。一度，どこかで調べてもらいたいと思うが，20 日前後に集まりをやっているところが多いので，そこを基準にしてほしい。12 月 1 日分で発送されると，12 月末に配ることになり，年末年始を挟むので，正味 3，4 日しか期間がない。

●：現在は 1 日から 30 日を基準にしているが，月の中旬を回覧の期間として考えて欲しいということか。

○：20 日を目安にしてもらえば次の月の 1 日も入るので。

●：今の配達形態で言えば，11 月 15 日分回覧で入れさせてもらえば，間に合うと思う。

○：そうすればどこも間に合う。

●：次回の委員会にはちらし案を示すつもりでいる。11 月 15 日分の回覧に間に合わせるためには，11 月 10 日過ぎには印刷が上がらないといけないので，次回までに精度の高いものを

作ってお出しすることになろうと思う。業者への依頼等なるべく急ぐようにしたい。

- ：事務局としては、来場人数を昨年より多く見積もっているのか。我々住民組織の責任もあるので、なるべくたくさんの人に来てもらうようにしないといけないと思っている。そうすると、「ゆめきやりあ」の 150 人では少ないと思う。ただ回覧を回して呼びかけただけでは人は集まらないので、ある程度組織化を狙って配分していこうかと本郷は思っている。各地域がそれをやると、150 人枠では狭いと思う。昨年は何人くらいだったのか。
- ：くい文化センターで行い、参加者は 110 人である。テーマや内容は同じような形でやっている。昨年度が 110 人だったというのは、我々の力不足の面があったかもしれないが、なるべくたくさんの方に集まって欲しいと思っている。
- ：ゆめきやりあの定員 150 人と、本郷生涯学習センターの 500 人にはだいぶ差があるので、事務局のほうで昨年度が 110 人だったので今年も少なく見積もって会場を選んだのであれば、少し情けないなと思って質問させてもらったのだが、事務局がさきほど話されたように、住民組織の動きを見て考えておられるならそれでいい。
- ：先ほども申し上げたとおり、できるだけたくさんの方に来ていただきたい。事例発表などは、身近な方の事例発表になるし、市民協働の顕著な例になると考えているので、ぜひとも多くの方にお越しいただければと思う。事務局として、取組みの足りない部分があったかと思うが、引き続きフォーラムにお越しいただけるようにしたいのでよろしく願いたい。
- ：事務局だけのせいではなく、我々地域の呼びかけがしっかりしないといけない気がする。
- ：それは大変ありがたい。会場についてだが、昨年が少なかったために「ゆめきやりあ」を挙げたのではなく、三原地域でリージョンプラザをpushしようとしたところ、すでに予約で埋まっていたため、「ゆめきやりあ」と本郷生涯学習センターを挙げさせてもらっている。今年も少ないだろうと見積もったということではなく、そういった、会場予約の関係になる。
- ：それは分かった。1月11日、リージョンプラザが予約で埋まっているように、同日に他に三原市としてどんなイベントがあるのか。大きいイベントが重なると、そちらへ行ってしまう。ある程度重なっていない日にしないといけないのでは。
- ：まず1月11日は消防の出初式がある。その次の週は本郷生涯学習センターで生涯学習課がイベントを行う予定、その次の週はコーディネーターの日程が調整できない。その中で調整したところ、日程が取れたのが11日。なるべく大きなイベントは外した結果となる。
- ：質問だが、昨年度はくい文化センターなので定員 300 人先着順となっているが、もし今年、「ゆめきやりあ」であれば定員 150 人先着ということになるのか。
- ：まず会場を「ゆめきやりあ」にするかどうかご協議いただくことになるが、もしゆめきやりあになった場合は、そのようになる。
- ：「ゆめきやりあ」は駐車場が狭い。50 台弱だから、乗り合わせて来られないと当然少なく、どうしても制限される。
- ：今までの話の内容から、本郷生涯学習センター（にいたかホール）のほうが良いのではな

いかという感じがする。それでよろしいか。

- ：異議なし。
- ：今言われた駐車場等の問題も考えると、本郷のほうがいいのでは。「ゆめきやりあ」にして立ち見などが出ても、申し訳ない。
- ：防災ネットワークも防災の体験会などをやっているが、広報の仕方が問題だと思う。やる度にいつも少ない。町内なら組織団体などある程度、ターゲットが必要なのではないかと思う。漠然と市民に来て下さいと言っても、なかなか集まってはくれない。例えば今、委員が言われたように、本郷でやるなら本郷の住民組織をターゲットにするとか。広報で出しても全市内には回っていない。こういう住民組織のテーマになると、一般の人が個人的にどうかという話ではない。ある程度、住民組織をターゲットにするような広報の仕方が必要なのではないかと思う。
- ：広報の仕方、というのではないが、言われたように、漠然と市民に声をかけてもなかなか参加しづらい。今年は無理だと思うが、例えば、リーダーさんのような方がいらっしやったり、助成金を出している団体もいるので、そういったところにパネルを出してもらったり、体験会をするとか、フォーラムに他のものも含めてやればいいのか。そうすれば、その人たちは来ないといけなくなる。そこまですると、3時間で収まるかは分からない。しかしそうして、逆に呼び込んできて、その人たちには参加してもらい、という形にすれば、その人たちに発言してもらって、いろんな方に伝えてもらえればいいのか。フォーラムにたくさん人が来たからといって、それが広まるかという難しいと思う。最後には、意欲のある人が参加してみたい、と思われるようなものを作ったほうがいいように思う。
- ：市民提案型協働事業で助成をしている団体がある。そのようなところに出てもらったらどうかという話に近いと思う。義務化というとおかしいが、彼らに出てもらえば、また違ってくるのかなと思う。  
あとは、発表者についてだが、私はこれを見ていて、「事業を進めていくうえでの苦勞を發表」とあるが、苦勞は確かに多いと思うが、苦勞だけでなく、やりがいや、喜びを入れてもらったほうがいいのではないかと思うが、いかがか。やっていけば、楽しいこともあるのでは。継続して活動をしていくということは、楽しくないとできないと思う。パネルディスカッションにも「苦勞」とあるが、それだけではないと思う。
- ：今はまだターゲットを絞っていないのでランダムに人が来るとして、今までそういった活動に全く関わっていなかった人が、フォーラムに参加して、ちょっとこういうのを始めてみようかなと思った時に、相談する窓口や資料はあるのか。話を聞いて、おもしろそうだなと思って、私も何かできることから始めよう、と思われた方が相談するところ。こういったものが広まらないのは、意欲があっても、次どうやっていいのか分からない方が多いからだと思う。
- ：今回発表する4団体と一緒にやってみたいと思う方向けの窓口を設けることはないが、例えばペーパーで資料を配ったり、そこに連絡先を入れたりということはできると思う。ま

た、毎年フォーラムの際にアンケート調査を行っている。この後、説明させてもらうが、連続講座とって、活動をこれから始めたい方や、スキルアップをしたい方向けの講座を行っていくが、そういった今後の講座に参加したい方は、アンケートに連絡先を書き添えれば案内を差し上げるということをしている。その中で、いろいろ繋がったり、ということは今までにある。ただ、当日ブースを設けて、直接何かをするということはない。

○：私が思ったのは、当日、ここに来ただけで終わるともったいないなということ。今聞いたように、連続講座があるという案内をして、フォーラムから連続講座まで参加をして、実際に何かを立ち上げたとか、そういうデータはないのか。

●：昨年度からは様々なテーマで事例発表してもらった形にしたが、それまでは1つのテーマに絞って行い、連続講座もそこに関連させて行っていた。平成23年度は防災、平成22年度は環境、平成21年度は子育てがテーマだった。子育てで行った際には、そこでボランティア・市民活動サポートセンターに核となってもらい、新たな会を立ち上げて、今でも月に1回集まって子育てについて考えるような、そんな動きもある。1度きりではないように、というのは意識してやっている。

委員に仰っていただいた部分は、重要なポイントで、そのためにやっている、というところがある。活動をしたい方が質問や相談をする窓口としてのボランティア・市民活動サポートセンターの存在を、アピールするような資料を当日配布してよろしいか。

○：サポートセンターのちらし等を準備しておくことは可能だと思う。

●：では「市民活動に興味のおありの方はこちらへ」というふうに、ちらしを用意して、受付で当日配布したり、また、行政としての窓口であるまちづくり推進課のほうへ聞きにきていただいたりすることは、可能だと思うので、そのように対応させてもらえればと思う。

## (2) 市民協働のまちづくりに関するアンケート調査について

○：基本的な部分の確認だが、これは長期総合計画を作るのに合わせて、市民協働に関する項目を抽出してアンケートをし、それを基にして平成26年度の推進計画見直しに活用しようという、ある意味非常に欲張った、1回で済むような方法を考えようということだろうと思うが、そういう位置づけでよろしいか。

●：市民（個人）向けに関しては、そうです。

○：内容的には、もうこれでいこう、ということなのか。あるいは、またどこかで委員を呼んで検討するような場面はあるのか。今日、もうここで決定するのか。

●：長期総合計画のアンケートに含める市民向けのものに関しては、できれば本日もお願いできないかと考えている。別紙2の10ページに出ているように、平成19年度の市民向けアンケートの段階では言葉の浸透についてはこのような状況だったものを、今回の設問1、2で今までの取組みがどうだったか検証させていただく。本当に望まれる市民協働のあり方、それぞれの主体の絡み方など、ある程度アンケート対象を絞り込むような形で、住民組織や活動団体へ別のアンケートをさせてもらえればと思っている。

先ほどお話があったように、欲張りな考え方ではある。長期総合計画のアンケートが全体で 20 問程度ある中で、4 問程度、市民協働のまちづくりについてということで取らせてもらっている。そうは言いながらも、本来ならば、来年以降、推進計画の見直しをしていくには充分ではないと私は思っている。今回は長期総合計画のアンケートの中でやっていくという形になっているが、できれば、来年度、活動団体や住民組織向けのもは当然ながら、個人の方に対しても、抽出件数は多くはならないかもしれないが、補完する意味でも、平成 19 年に実施した内容等も考慮し、もう少し網羅したものを作っていくとかなかなか次回へ反映できるようなものにはならないという思いはある。よって、これで個人の方を済ませばいいとは思っていない。できれば、来年度について、団体・個人についてもある程度、抽出件数等は未定だが、補完する形のアンケートなど実施したほうがいいと私は思っている。

- ：限られた設問の中でいろんなことを聞こうというのは、かなり厳しいものがある。もしこれでいくなら、一つ目の質問の「あなたは『市民協働のまちづくり』という言葉を知っていますか」の選択肢に「意味をよく知っている」とあるが、この「意味」とは何を意味しているのか。むしろ、その目的を知っているかを聞いたほうがいいのではないか。もちろん、目的があれば手段が必要なので、その次の設問はそういったことになるかと思う。「市民協働のまちづくりを推進していくことについてどうお考えですか」という設問があるが、ここで聞く意味があるのか。逆に、市民協働はもうやっていくものだ、と思っているので、どう感じてらっしゃいますか、と聞いたほうがいいのでは。あるいは、誰にとって必要なのか。あなたにとって必要だと思われますか、とか、的を絞った質問の仕方があるのではないかと思う。市民協働のまちづくりとは誰のためにするのか、何のためにするのか。私には必要ではないけど地域には必要だ、と思っている人もいるかもしれないし、リアリティのある質問にすべきでは。また、最後の質問について、確かに広い意味では市民協働に当てはまるが、我々が今ここで議論している具体的にどうしていくかというものとは違い、幅が広すぎるのではないか。これは、長期総合計画に関する設問の最後に持ってくればよいものであって、市民協働についての設問には、もっと合致したものを入れたほうがいいのではないかという気がする。
- ：最後の設問に「今回の『新しい総合計画づくり』など」とあるが、これがあると分かりにくいので、除いたほうがいいのではないかと思う。
- ：一般の人は「新しい総合計画づくり」と言われても何か分からない。
- ：このアンケートでは、次の計画改定にあまり役に立たないように思う。プロセスに参加するという協働の原則から考えると、もっと突っ込んだ質問にしたほうがいいのでは。精度を上げて絞って射的を射た質問にしたほうが、成果が出るのではないか。
- ：市民協働について、設問より前に説明をして、ここで市民協働とは何かの答えを出してしまっているのだから、その次に「言葉を知ったことがあるか」というのはおかしいのでは。最初の設問の後に、説明をしたほうがいいのではないか。また、最初の設問で「聞いたことはあるが、意味は知らない」とか、「聞いたことはない」と回答した人には、次の設問は

答えにくいのではないか。二番目の質問に関しては、市民協働とはこういうことなんだと説明したうえで、じゃあ、市民協働のまちづくりに関してどう考えているかと聞くと、答え易いかなと思う。そして、一応説明をしているので、取組むために何が大切か、など、全て答えられるのではないかなと思う。

- ：設問1で「聞いたことがない」と答えた人は、その次からは、答えられない。知らないのだから、「分からない」とか、そういう回答ばかりになる。
- ：協働についての説明を二番目に持ってくればいいのかと思う。
- ：市民協働のまちづくりというのは、言葉で書かれても分かりづらいし、自分たちも、こういうものだと説明するのは難しい。それに興味関心があるか聞いても、「何に？」と思われる。こういうことをやっているのだけど、こういうことを知っているかとか、参加してみたいかとか、そういった活動に参加しているかとか、参加できないのはなぜなのかとか、そういう聞き方のほうがいいのでは。長期総合計画づくりに関しては、最初の方で調査しているのだろうし、基本方針があると思うので、もう少し絞ってもいいのではないかなと感じた。あまり広すぎると何を聞いているのか分からないし、逆に絞りすぎるとマニアックすぎて、市民活動団体などに聞くところになるので難しいが、もう少し絞って、興味関心があるかとか、こんなことを知っているかとか、参加できないのはなぜなのかとかを聞いて、それを解決するために市がどう対応していくかという次の施策につながるのかなと思う。そもそも、地域や公共の課題というのが何なのか分かりづらい。そういうことを感じることがあるかとか、そういうことも必要なのではないかな。
- ：身近な例を挙げて示すと分かりやすいのだと思う。
- ：話をお聞きして、先程も申したように、個人の方の考えを確認するアンケートも、やはりこれでは短いだけになかなか難しい。来年度、活動団体に絞るとするか、協働に絞って、活動の内容を知っておられるかとか、参加できないのはなぜかとか、この前お出しした職員アンケートのようなものになるかもしれないが、26年度の実施を考えていきたい。その時はまたこの委員会でご協議いただきたい。また、4番目の設問については、協働の項目で聞くべきなのかと私も思う。行政のいろいろな働きかけを協働という方向でやっていくという中で、どのような参加を望まれるかという意味で、こういう設問も良いかなどということ、入れさせてもらった。この項目に含めるかどうかは別にして、三原市もかなりの計画を今現在立てているし、これからも立てていき、それに従って施策を推進していくということになるので、今後もこういうことが必要になる時に、ひとつの考え方として、いずれかに、こういう設問を入れてさせてもらおう。ただ、「今回の『新しい総合計画づくり』」は取ってもらったほうが良いと思うので、政策企画課に相談する。また、3番目の設問については、1番目の設問で協働について知らないとなった時にどうかということがあるが、知らないと答えた方はもう答えなくていいというものではなく、もう少し検討させてもらおう。1番目、2番目については、平成19年度の調査との継続調査ということで、設問内容を一緒にしている。どのように変わってきたかということを調査するために、このような項目にしている。委員のご意見はできるだけアンケートに反映させたいが、できれば来

年度まちづくり推進課が行う予定の個人向けの協働のアンケートで、明らかにできる部分はさせてもらえればと思う。アンケートをする意味・意義としても、次期計画の中でどういう方向性か、基本的な部分で確認しなければいけないと思う。先程仰っていただいたような、誰にとって必要なのか、どの部分にとって必要なのかなどは、ぜひともお聞きしたい部分でもある。それを長期総合計画の中の限られた設問の中で十分に表していくというのは難しいと思うので、継続調査であるということも含めて、基本的にはこの内容でいかせていただければと思うが、どうか。

- ：継続性を考えると、当然そういうことになっていくと思うが、若干の文言の修正を考えていただきたい。最後の設問についても、3つまで丸をするようになっていくが、これが引っかかる。広い考え方で、アンケートとか手紙とかSNSとか説明会とか、そういうことしか書かれていない。協働の本来のやり方というのは、立ち上がりから、プロセスから共有してお互いに話し合っやっていくというものであり、そこが抜けている。アンケート自体に瑕疵がある。本来の協働のやり方とはこうなんだ、とアンケートで問わなければ、こういうような形が協働なんだということが、広く市民、行政担当者も含めて、蔓延してしまうのではないかと。これは避けなければならない。ここを強調しておきたい。
- ：最後の設問については、ここに入れるかどうかも含めて検討させていただきたい。
- ：そこは事務局にお任せする。
- ：任せていただけるとありがたい。選択項目のあり方については、いろいろ考えた結果、本当はまだ入れるべきとか、関係ないというものも入っているとか、そういう中で考えて、入れているものもあるので、入れるか入れないかという根本的なところも検討させてもらえればと思う。
- ：協働を推進するという委員会に参加させてもらっている委員なので、今のような意見をお伝えしていきたいというところでは言っている。
- ：出していただいた意見はそのまま伝えさせてもらおう。
- ：アンケートの目的というのが26年度から行う新しい計画への反映ということで、言われたように継続性ということがあるのであれば、文言をあまり変えずに、というのはそのとおりだと思うのでそれで良いが、設問のところでは何を聞いて、そこで出てきた割合を計画にどう反映させるかというやり方でいくと、一番最初に言ったように、「知っていない」という答えと、「知っている」という答えと、大きく分けて二つになる。では「知っていない」人には、どうやれば市民協働を知っていただけるのかというのが、次の計画の時に触れなければいけないことになるので、知らない人に知ってもらうために、例えば情報の部分でいえば、どういうところで情報を得ているから、どこに載せれば分かるのかと分析をしようとしたときに、最後の設問が、市民が参加する場合の手法とかではなくて、市民がどこから情報を得ているのかが聞きたい設問になると思う。「知っている」というふうに答えた人には、市が次の計画でどういうふうに行っていくか、促進されるのかというところでは、「知っている」と答えているが本当にどこまでのことを知っているのか、ということを知りたいのであれば、例えば誤解があるから、それを次の計画では誤解のないように

やっっていかなければという分析・反映ができる。中身も知っているとなれば、それを促進するために抱えている課題はどんなものがあるかと聞けば、次年度はその課題を解決する、というふうに、いわゆるロジックモデルというか、全てがつながってくるはず。それを施策に反映させるためには、施策でどういうふうに市民協働をやっていくか、もともとのところに立ち返られて、それがどこまで達成したのかというのを、行政評価等でされると思う。それに反映できる形の設定を、間に入れられたほうが、より効果的なアンケートになる。26年度以降の計画に反映できないかというところでいくと、設問1とか2に答えた人は2-1に 부탁드립니다、3に 부탁드립니다、というように、分けて整理されたほうが、次の計画に反映し易い、アンケートを取る意味があると思う。

○：では継続性の問題や効果という問題もあるので、含めて検討していただければと思う。

### (3) 連続講座の開催について

○：まず、連続講座のテーマを決めていかなければいけないのではないかと。平成24年度は地域活性化だったが、平成25年度は何になるのか。

●：同じで、地域活性化となる。

○：テーマが決まったら、それに関してのものということになるが。

●：地域活性化なので、住民組織もあれば、市民活動団体もある。それぞれ、いろんな形で講座が開けるのではないと思う。委員のほうから、こういう講座があれば受けたいというものがあれば、ご意見をいただければと思う。それで、どういった内容のもので、どんな良い講師がいるとか、探していけたらと思っているので、率直なご意見をいただきたい。

○：私事だが、町内会の公民館の新築をしていて、来月完成をするので、その際に、広島経済大学の松井先生に来ていただく。防災についてかなり講演をされている。専門がマスコミ関係や、地域のコミュニティについてなので、地域コミュニティの講演をお願いしているが、人を惹きつける話をされる方で、範囲も広いので、どこかの講演の中にお呼びすれば、かなりインパクトがあるのではないと思う。今年も、自主防災のほうで、総会の時に来ていただいたりもしている。

○：地域の活性化というのであれば、それにつなげて、来ていただければどうかなと思う。

○：防災の担当ではないが、阪神大震災を経験されているので、防災に力を入れておられる先生だ。

○：去年、社協に登録されている団体のみに向けて、ちらしを作成する講座を開いたが、後から他の団体にも話をしたところ、自分たちも受けたかったという声があったので、ひとつひとつのグループがちらし作りに興味を持っているなら、それをひとつの講座として取り上げたらどうか。また、個人的に興味があるのはリーダーシップの取り方で、大勢が集まって何かをする時にどのように進めていくかということをや何か勉強できるものがあればという思いがある。

○：ちらしの講座というのはどんなものか。

○：手書きであれパソコンであれ、ちらしを作るときにどのように作ったら効果的か、興味が

あるという方がいた。

- ：表現の仕方とか、どうすれば目を惹くかとかいったことか。
- ：そうだ。
- ：リーダーの養成というのはどういうものか。
- ：養成というか、どうしたらよいかを学ぶようなもの。
- ：広島県の防災リーダーの研修があって、リーダーとしての話し方とかがあった。人前で話すときにどういう話し方をしたらいいとかか。
- ：防災とかまちづくり向けに、マネジメントの中でリーダーシップ論をやられる先生はいる。
- ：コミュニケーションの取り方というか、関係の作り方というのが希薄になっているのが問題なので、どうしたら関心を寄せてくれるのかとか、そういった技法にみんな関心を持つのではないかと思う。
- ：知っている事例だと、大阪の駅前で違法駐車自転車がたくさんあって、それをどうにかなくそうと、商店街の住民があいさつ運動をした。ここに自転車を停めてもらっては困ると言う揉めるので、「おはようございます」と挨拶をして、すると、みんな止められなくなり、解決したというのがあった。そういうのが分かると、自分もやってみようかな、いいな、と思う。こういうふうにやってみたらこうできました、という事例があればいいのではないかと思う。テーマはもう「おいしい！三原～つなげよう ご近所の輪～」で決まっているのか。第二弾とあるが、フォーラムからこれでいくのか。
- ：そういう話で決めさせてもらっている。
- ：第一弾と第二弾の違いとは何なのか。「おいしい！広島県」のキャンペーンを見ていると、おしいだけじゃなく、こんなに良いものがあるんだよという、お宝を発見するやり方になっている。本当はこんなに良いものがある、という考え方で言えば、キラッと光るいろいろなコミュニケーションの取り方があるとか、ここにこんな人の宝、人材がいたんだよ、光る人を見つけたよとか、例えば三原の市民生活をより活発にすると言うけど、実際は活発でみんなが知らないだけなんだよという逆転の発想というか。会長が先程仰ったように、苦労を併せて発表するというようなネガティブな部分ではなく、もっとポジティブな部分というか、キラッと光る部分がいっぱいあって、そこをどうやって見つけたのかとか、ここがツボだったんだというようなことを語ってもらえるような、そういう面白げな、ここが一大転換点だったんだよという、おいしいところを見つけていくフォーラムでいいのではないか。三原というのは、ここにいらっしゃる皆様方もそうだが、すごい人たちがここにいらっしゃったんだよと改めて感じられる地域でもあると思う。そういうことができる風土が三原にはあると思う。そんなフォーラム、連続講座もあっていいのかなと思う。三原はだめだだめだ、活性化していない、と思っているが、実はこんな議論が平然とできる、そういう風土がすでにあったんだ、これって他所にはないものだよ、と確認するような連続講座、お互い自分たちが持っている宝物を再確認するようなものを企画しても面白いかなと感じた。
- ：いろいろな言い方はできると思うが、自分たちが持っている本来の能力に気付くというこ

とだと思う。自分たちの良さというのは意外と自分たちは知らない。三原の良さは外から来た私がある程度よく分かるところがあって、三原に住んでいる人は分からない。他から来た学生たちに聞くと、潮の香りがする、と言ったりする。やはり、良いものを探していく、自分では気付かないものを探していく、という方向性が必要なのではと思う。

- ：第二弾というのはどういう意味なのか。昨年度やったからということか。
- ：そうだ。地域活性化というテーマでいきたかった。テーマ別というのは今までやってきたので、そこには戻らずに続けていこうという思いから。
- ：第二弾というのはいるのか。
- ：視点を反対側から見るとかそういう仕掛けがあつていいのでは。第二弾と入っただけでは面白くないので、一ひねり入れて、実はおいしい三原、とか。
- ：私も考えたが、第一弾は「おいし！三原」だったが、第二弾は「おいしいから、おいしい三原 楽しい三原 うれしい三原」などはどうか。
- ：今アンケートを見て思ったが、自分も含めて 40 代というのは差がある。そんなものは関係ないと思う人間が多い。良いかどうかは分からないが、ちょっとくだけた部分が必要なのではないか。「つなげよう ご近所の輪」と言われても、「え？」と思う。贅沢をしなくても食べるに困らない、人と話さなくても生きていける、自分の趣味も楽しめる、という状況で、わざわざそんなに近所の輪はいらないというところに戻るのではないか。30~40 代という人間を意識すると、すごい労力だと思う。ターゲットを漠然とではなく、ある程度絞るほうがいいのかも。ネタ的に、連続講座でも、ここに 40 代くらいがくると楽しそう、ここは住民組織の人がくると楽しそう、というように、テーマも含めて絞るか何かしていかないといけないのでは。私は実際に今三原に住んでいて、おいしい三原と思っていない。楽しい三原だと思っている。これをやることによってそれを考えていくことが、例えば住民組織が増えていくことが目的であれば、例えばチラシもくだけるとか。層的には厚いと思う 30~40 代が、あまりにも無関心すぎる。話していて結構それを感じるので、どうにか掘り起こせないかなと思う。
- ：前にコミュニティビジネスみたいな話を聞いたときに、二足目の草鞋をどう履くかという話があつて、パチンコするより、自分の何か考えたことをやって、お金を稼いだほうがいいじゃないかという話があつた。そういう考え方も面白いなと思った。そういう層の人たちが面白がつて、自分もこういうのならやってみてもいいかな、と思うようなものもいいかなと思った。
- ：その中で、実は今やっていることがそうなんだ、ということもあるかもしれない。だからさっきの、発見、とかいうのは良いと思う。
- ：「発見！三原」などはどうか。
- ：「実は！」というのもどうか。
- ：住民組織の活動に 30~40 代は出てこないが、他の団体では結構活躍している。育成会とか P T A とか。それを住民組織へ引っ張ろうとすると来ない。魅力がないのだと思う。
- ：魅力というより、地域の行事も学校の行事もあるので忙し過ぎる。

- ：役員はそうかもしれないが一般の人はそんなに行事があるわけでもない。どうやって引っ張り出すかというのが大きな課題。
- ：一瞬でも楽しいと思えば絶対に続けて来ると思う。
- ：広島県は「おいしい」にするかどうか揉めて結局もう一年「おいしい」にすることにしていたが。
- ：もう一度テーマを考えるか。
- ：全部を網羅しようとするのが難しい。
- ：ただ、そういう意見もあるのではないか。
- ：前回話したように、その部分を連続講座で補っていくというスタイルでいいのだろう。フォーラムはフォーラムとして置いておいて、いろんな意見が出たものは、連続講座で取り入れてやっていくということで。3回やる中で、30～40代をターゲットにしたりとか、そういうふうにやっていけばいいのではないか。フォーラムそのものはこのタイトルでいくしかないのだろう。
- ：連続講座で今言った意見を取り入れていけばいいのではないか。
- ：フォーラムも連続講座も含めたテーマになる。曲がりなりにもこのテーマで進めているところがあるので、フォーラムのほうはこれでよろしいと言われれば、それで良い。話を聞いていて、今までの講座より一歩踏み込めるのではないかと感じた。テーマは絞ってきたとは思いますが、対象を絞ってきたかといえば、どうかというところがある。具体的に先生の名前を挙げていただいたりもしているが、来月10日頃までにこういう案がおもしろいのではないかというのがあれば、寄せていただいて、今日のお話を受けて、私どものほうも講座の内容については白紙なので、含めて考えさせていただいて、整理して出ささせていただければ。大変良いお話があったので、もう少し考えていただいて、良い案があればお教えいただければと思うがいかがか。
- ：案があれば事務局まで連絡するというごことをお願いする。
- ：連続講座は、今回は何回開催できそうなのか。ターゲットも3回に分けるのか。
- ：そうなるかと連続というのか。ターゲットが1つなら連続だが。ある程度興味のある方をターゲットにすることになると思うが。
- ：講座形式になると、こちらが指定したテーマに興味のある方しか来られないので、フォーラムのように、どうか来て下さい、という形にはならない。回数は、委託料の範囲内ということになるので、講師料によっていくらか前後すると思う。3回か4回かだと思う。
- ：講師の先生が話したいということと、こちらの意図と、お互いに折り合いをつけながら、という格好でどうか。こちらの意図としては、ターゲットを絞り込んで、効果を出したい。一番最初にベーシックな話をされるなら、そこはもっといろんな人に来てもらってもいいですよという形になるかもしれない。そこはもう少し精査してもらえればと思う。
- ：現在、中山間地域の計画策定を市の政策企画課へ申請をして行っているが、アンケートで小学生などの意見を聞くべきという意見が出た。県大の学生に三原市の将来について簡単なアンケートでもできればと思っている。今はボランティアや福祉など、いろいろ、社会

において実践をするような学校もある。無理やり引っ張ってきたのでは力も身も入らないと思う。活性化をしていくためには、若い者は将来の三原をどう考えているのか、ひとつここへ投げただけであれば、意見交換ができるのではないかと思うのだが。

- ：大学のほうでは、前市長と大学生の懇談会を開催していた。地元の学生よりも外から来た学生がどのように思っているかが非常に参考になった。学生にも、突拍子もないことを言うものもある。例えば、若者をたくさん定住させるためには福祉系の大学だけでは不十分なのではというような意見もあったりするが、だいたい自分の育った市町と比較しながら話す。大津市から来た学生は、自分のところには伝統的な祭りがあって、そのPRが非常に上手であると。三原はやっさ祭りのPRが下手なのではないかとか。船で来てもっと観光するようなイベントをやってはどうかとか、学生なりの面白い意見は確かに出る。循環型の学生なので、住むわけではないかもしれないが、外から来た意見というのは、アイデアとして取り込めるものもあるかもしれない。協力というのは、できる。学生もアルバイトをたくさんしているので、マップなんかも作っている。商工会議所もマップを作っているが、学生は手ごろに入れるお店のマップを作っている。新一年生がやっている。協力があれば言ってもらえればできると思う。
- ：やっぱりテーマは第二弾というのが引っかかる。知らない人は、第二弾とは何かと思う。
- ：「おいしいからおいしい三原へ～つなげよう ご近所の輪～」とかではどうなのか。
- ：おいしい！三原はそれでいいが、その次のサブタイトルを変えてみてはどうかと思う。
- ：「おいしい！三原～おいしいから おいしいへ～」というような
- ：テーマを変えるということもあると思う。さっき仰っていただいた、「おいしいから おいしいへ」とか「発見！三原の宝」とか。さきほど仰っていただいた意見を元に、委員のみなさんが変えるという意見で一致されるのであれば、変えて決めていただければ。
- ：大きなテーマとして「地域活性化」はそのまま、フォーラムと連続講座のテーマを、今までの議論の中で事務局のほうとしては「第二弾 おいしい！三原～つなげよう ご近所の輪」と出しているが、それに対して我々がどうするか。「おいしい！」というふうに変えるのか、あるいは、「第二弾 おいしい！三原～つなげよう ○○～」と文言を変えるか。
- ：サブタイトルのほうは変えても、第二弾というのはつけるのか。
- ：第二弾でそのままいくと言えば、それでもいい。
- ：この第二弾、というのは、フォーラムに続いた連続講座、という意味なのか。
- ：昨年度に引き続いた第二弾、という意味。
- ：特にこだわりがないなら取ってもいいと思う。第二弾というのがあることによって、第一弾に来たことのない人は、行くのはどうかなと思う人がいるかもしれない。
- ：全くテーマを変えるというよりは、副題を変えたほうがいいかなという感じがする。
- ：フォーラムの内容はあまり変わらず、事例発表の人が変わっているだけなので、第二弾とつけると、更に、前と一緒にという感じがしてしまう。
- ：事例発表者がどのような発表をされるのかで副題を考えたりとか。これを言いたいんだというものがあれば、それを入れていただいたり。一番聞いていただきたいところというか、

みんなに伝えたいところというか。

○：いつまでに決めるか。

●：できるだけ早く周知したいと考えており、来月の10日ではちょっと遅いので、10月30日に出させてもらうチラシはある程度完成したものを出そうと思うので、できればここで決めていただきたい。

○：昨年度、いろいろ意見が出たと思うが、あの時のものを何かとっていけば、そこから取り入れてもいいのではないか。

●：黒板の写真を撮ったものは残している。

○：なかなか良い文言が出ていたのではないか。

●：それでは、メインテーマにしてもサブテーマにしても、第二弾という部分はどうかという意見があったので、発表の内容や、言いたいことなど、そういったことを加味しながら、こちらのほうで、新しいテーマを考えさせていただいてもよろしいか。申し訳ないが、事務局のほうにお任せいただいて、正副会長に見ていただいて、決めさせていただいてもよろしいか。

○：私が思うのは、8月の終わりに委員会をやったのが何も意味がない。みんなで話してテーマを決定した。それに沿ってみんなで考えていかなければいけないのではないのか。それぞれの意見はあるだろうが、連続講座のほうで考えていけばいい。テーマは、8月にみんなで議論したのが何の意味もなくなる。意見はこれからでもたくさん出てくる。会議をして一度決めたら、みんなが右に倣えでやっていかなければならないと、私はそう思う。

○：では、「おいしい！三原」は変えずに、サブテーマくらいは変えてもいいだろうということでもよろしいか。

○：それでいい。

●：メインテーマを変えずに、サブテーマを変えるということで、先程のような形でさせていただいてよろしいか。

○：それで了解ということでもよろしいか。

○：異議なし。

○：質問だが、連続講座は地域活性化から離れて講師を紹介してもいいのか。全然離れてしまってもいいのか。先程リーダーシップとかいろいろ意見が出たと思うが。

●：地域活性化というのは広い意味なので、リーダーシップやちらし作りもその中に入ると考えている。

○：広い意味で捉えての地域活性化ということで了解した。